

令和元年度生野区区政会議 第1回全体会

1 開催日時

令和1年6月21日（金） 19時00分～21時09分

2 開催場所

生野区役所 6階 大会議室

3 出席者

（区政会議委員）25名

栗信委員、新藤委員、和田委員、山本委員、猪股委員、服部委員、米川委員、高岡委員、新井委員、辻浦委員、杉浦委員、原田委員、川上委員、村上委員、杉山委員、森口委員、亀田委員、伊藤（廣）委員、室谷委員、伊藤（千）委員、松田委員、林委員、川端（麗）委員、田中委員、清水委員

（大阪市議会議員）4名

木下議員、武議員、原口委員、山田議員

（大阪府議会議員）1名

角谷議員

（その他関係者）3名

北尾様、多田様、田中様

（生野区役所）17名

山口生野区長、櫻井副区長、橋本企画総務課長、清水区政推進担当課長、中村地域まちづくり課長、井平安心まちづくり担当課長、山崎生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、岩本窓口サービス課長、山本保険年金担当課長、山口保健福祉課長、山戸地域福祉推進課長兼政策推進担当課長、上浦生活支援担当課長、大西都市整備局生野南部事務所長、堀田市民局区政支援室地域安全担当課長兼生野区役所住民運動支援・調整担当課長、忍教育委員会事務局学校環境整備担当部長兼生野区役所こども未来担当部長、樋口教育委員会事務局総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、大川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長

4 委員に意見を求めた事項

（1）平成30年度生野区の取組み振り返りについて

- 資料 1 平成30年度生野区の取組み振り返りについて（全編）
参考資料 1 平成30年度生野区運営方針（振り返り）
参考資料 2 事前にいただいたご意見と区の考え方
参考資料 3 いまざとライナー（B R T）ご利用ガイドブック
参考資料 4 平成30年度区政会議の意見等における予算等への反映状況
参考資料 5 生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想
（概要版）

（２） 各部会からの報告について

- 資料 2 令和元年度第 1 回各部会からの報告について

5 その他

- 参考資料 6 令和元年度生野区区政会議委員改選について

6 会議内容

○和田議長

皆さん、こんばんは。議長の和田でございます。

ただいまから、令和元年度第 1 回区政会議を開催いたします。これより着座にて失礼いたします。

区政会議は、区民が主役として地域運営に当たるために、課題解決のためどう取り組むべきか、また課題解決に必要な行政とのパートナーシップとは何なのかを建設的に提案する、そういう趣旨の会議となります。よって、委員の皆様の個人の感想ではなく、地域を主体的に運営する見方に立って意見を交換し、議論を深めるという姿勢で、積極的なご発言をお願いいたします。

それでは、開催に当たり山口区長からご挨拶をお願いいたします。

○山口生野区長

皆さん、こんばんは。お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

これだけたくさんの方に出席していただいて、生野区の昨年度の取り組みの振り返り、またそれを踏まえて、新たにどうしていったらいいか、それを行政がやること、行政だけしかできないこともあるとは思いますが、地域の力であったり、またそれぞれのまちで頑張る人たちの力であったり、いろんなご意見いただきながら、どうやったら生野区が前に進んでいくのか、いい方向に向かっていくのか、今日はまたそういういろんなご意見をいただければうれしく思っています。

あと、ちょっとこの場をお借りしまして、G 20がもうすぐ開催されますので、交通規制もろもろでいろいろご迷惑をおかけすることも多々あるかと思えます。どんなことが起こるかわからないので、区役

所のほうも態勢をとっておりますけれども、連絡とか情報が入るようにしていただければと思っています。

それから、里親のチラシがあったと思うんですけれども、7月30日に里親の講演会とパネルディスカッションがあります。私は、ずっと学校の校長をしていたときから、子どもの虐待の問題に関しては、さまざまにかかわることがありました。

最近、本当に大きな事件、もう取り返しのつかない事件があちこちで起こっています。その理由の1つが近くで預かってくれる、一時保護所がいっぱいというのもあるんですけれども、近くで預かってくれる養育里親という里親が少ないということも原因の1つであります。ぜひ関心を持っていただいて、まずは来ていただければうれしいなと思っています。

児童虐待防止法の大きな改正がありました。子どもたちをどうやって守っていくか、みんなで手をつないで考えていかなければならないと思っています。

同時に、生野区はいつも言うんですけれども、高齢化の最先端のエリアでありまして、いかに生涯現役で皆さんが活躍していただけるか、安心して暮らせるまちであり続けるか、これもまた皆さんのご意見をいただきながら、考えていかなければならないと思っています。

今日は、いろんなご意見をよろしくお願いいたします。

○和田議長

どうもありがとうございました。

それでは、議事に入る前に、昨年6月14日開催の区政会議全体議会に関し、区役所から報告があるとのことでございますので、お願いいたします。

○忍こども未来担当部長

失礼いたします。皆さん、こんばんは。

私は、平成31年4月1日付で生野区役所こども未来担当部長を命じられました大阪市教育局事務局学校環境整備担当部長の忍と申します。

改めまして、生野区を初めといたします学校配置適正化を担当させていただきますこととなりました。よろしくお願いいたします。

皆様には、日ごろから区政などに対しまして、格段のご理解、ご協力を賜っております。まことにありがとうございます。お礼を申し上げます。

さて、区政会議の冒頭になりますけど、貴重なお時間の中でございますが、お許しをいただきまして、おわびを申し上げたいと思います。

昨年6月14日に開催されました平成30年度生野区区政会議第1回全体会の中で、私の前任が学校再編適正配置に関しまして、生野区と関係のない事象をご紹介する発言を行いました。

所管する施策、出された質問について適切に説明をいたして、もって円滑な会議運営に努めるべきところをこのような発言によりまして、出席委員の皆様を初め、区民の皆様に勘違いをさせたり、不安を抱かせ、混乱を抱かせたりいたしましたことは、本当に申し訳なく、心からおわびを申し上げます。

私は、改めて山口区長が目指しておられます、来たい、住みたい、住み続けたい生野区の実現に向けまして、大阪市生野区の職員として区民の皆様とともに、協議によって理解を得ながら進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。ありがとうございました。

○和田議長

どうもありがとうございました。

それでは、お手元の会議次第に沿いまして、資料1の平成30年度生野区の取り組みの振り返りについての区役所からの説明の後に続けて、先日行われた3つの部会について、各部会からの報告に入ります。

報告の順番は、部会の開催日順で、くらしの安全・安心部会、こどもの未来部会、まちの未来部会の順にお願いします。

それでは、まず区役所から説明をお願いいたします。

○清水区政推進担当課長

生野区役所区政推進担当課長の清水でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、区役所からのご説明に入らせていただきます。

今回は、昨年度の区役所の取り組みの振り返りといたしまして、委員の皆様にお示しするものでございます。紙の資料といたしましては、資料1として事前にお送りしておりますので、本日は、前のスクリーンでご説明させていただきたいと思っております。前のスクリーンをご覧ください。

まず、改めて区政会議そのものの目的は何かということですが、既に委員の皆様はご存じのことと存じますが、区政会議は区役所の方針や取り組みについて、委員の皆様からご意見や評価をしていただく場となっております。

今回の区政会議では、昨年度の取り組みについて区役所として振り返りを行い、それについて委員の皆様にご意見、評価をいただくことで、既に始まっている今年度の取り組みや来年度以降の取り組み、方針に反映できるものを反映していこう、改善していこうというものでございます。

本日の全体会の前に3つの部会を開催いたしました。それぞれの部会の委員の皆様からさまざまなご意見等をいただいております。詳しくは後ほど各部会から委員の皆様にご共有いただきまして、その後に、本日改めてご意見や評価をいただきたいということでございます。

それでは、時間の関係もございますので、各部会での主なテーマからご紹介させていただきます。

まずは、くらしの安全・安心部会からです。

こちらは新巽中学校と巽南小学校の合同防災訓練学習、防災学習の様子です。

こちらは防災訓練の体験です。いつ災害が発生しても対応できるように訓練を繰り返し行い、防災に必要な知識や技術を身につけるために取り組んでいます。

こちらは西生野小学校でのあじさい防災パートナー研修の様子です。3月31日、地域防災リーダー、あじさい防災パートナーと町会長、女性部長の協力を得て行いました。

続きまして、こちらは区の地域防災リーダー研修の様子です。大規模災害時には、住民の先頭に立って初期消火や救出、救護活動を行うリーダーとなり、また平常時には、防災用資機材などの点検や地域の方への防災啓発などを行っていただいております。

こちらは防災出前講座です。出前講座とは、区役所、区内の行政機関、事業所の職員が講師として皆様のところへお伺いし、暮らしに役立つ知識や情報などをお示しする講座です。こちらは福祉事業者向けの講座の様子でございます。

続きまして、こちらは土曜授業防災学習の様子です。生野南小学校での授業の様子でございます。

昨年度、広報いくの9月号では、特集として防災のすすめを掲載いたしました。地震が起きたらどう対処するの、逃げるときの注意点、避難の心得など、地震や水害に対する具体的な対応策をご紹介します。

こちらは今月6月号の広報紙です。防災のすすめ第2弾として特集いたしました。大雨に備える、防風に備える、避難の心得など、大雨、防風に対する対応策をご紹介します。

以上が安全・安心部会です。

次に、こどもの未来部会です。

今年の4月に勝山中学校と鶴橋中学校が再編により桃谷中学校として新たにスタートしました。

こちらはその入学式での様子です。校訓は、自律、協働、創造です。94名の新入学生を迎え、各学年3クラス、合計285名での新たなスタートとなりました。

こちらは全校集会での様子です。再編に伴う教育環境の整備の一環として、全学級につり下げ型のビデオプロジェクターが設置されています。黒板に映像を映しながらその上をチョークでなぞったり、またタイマーを表示して課題に取り組んだり、視覚的に学習を支援するものとなっております。

これはICTを活用した、ビデオプロジェクターを活用した授業の様子でございます。

学校の先生のお話では、思ったよりスムーズに2校が合流できた印象であること、子どもたちは勝山、鶴橋中学校それぞれの意識を持ちつつも、子どもたち自身が積極的に交流することを意識して行動しているように感じていらっしゃるということ、また心の中には不安があるからそういった意識が働くのだと思うが、やはり子どもたちはすごいとおっしゃっていました。

体操服の洗い替えとして、前の学校の体操服を使用することが認められております。この写真は、異なる学校出身の生徒たちが仲よくしている後ろ姿です。

続いて、クラブ活動の様子です。部活動については、もともと女子のみであったクラブが男女とも参加可能となるクラブができるなど、活動の幅も選択肢も広がりつつあります。また、もと鶴橋中学校を第2グラウンド、第2体育館として使用することで、写真にありますように陸上部、サッカー部、ラグビー部が同じ時刻に別々のグラウンドを使用できるなど、自由に大きく練習ができる環境となっています。これは第2グラウンドの様子です。

桃谷中学校ラグビー部は、先日行われました大阪府中学校秋季総合体育大会において、第3位の成績をおさめられました。

以上がこども未来部会からのご紹介です。

最後に、まちの未来部会です。

この写真は、生野ものづくり百景です。生野区では、若い世代を中心とした多くの方にもものづくりのまち生野区の魅力を知っていただくため、区内の製造業で働く人や技術の魅力をイラストを交えながら紹介するリーフレット、生野ものづくり百景を平成25年度から作成しています。

生野区には1,562社の製造事業所があり、市内24区の中で第1位を誇ります。このものづくり百景では、ふだん見ることができないものづくり企業で働く人や技術の魅力について、記事とイラストで紹介しています。現在77社をご紹介しておりますが、タイトルのとおり百景を目指して今後ご紹介してまいります。

こちらは昨年度、新たに追加となりました読者のページです。

こちらは広報紙8ページ、連載記事の面でございます。広報いくのではものづくり百景に掲載されている企業から毎月1社を取り上げてピックアップものづくり百景というタイトルで紹介しています。社長さんから直接お話を伺い、その内容を記事にしています。

ものづくり百景では、イラストでのご紹介となっておりますが、ピックアップものづくり百景では、写真を採用し、別の角度からものづくりの魅力を発信できるよう工夫しています。その月に広報いくので紹

介した企業の製品の画像をブログ及びツイッターのトップ画像に貼り、ものづくりのまち生野をアピールしています。

こちらは昨年の7月に小学校五、六年生を対象にもものづくりの体験教室を開催したものです。これは小学生の皆さんにもものづくりの楽しさを知ってもらいたいと、大阪市立生野工業高等学校とともに毎年行っているものです。

こちらが小学生向けのもものづくり教室です。こちらは芸術文化に親しむワークショップの様子です。

「ふれる。かんじる。I K U N O ものづくりものがたり」昨年12月に4回にわたり、ものづくり体験のワークショップを開催しました。ワークショップは、大阪切子ガラス、ガラス工芸、透かし彫り、唐木細工など、3つのコースから選んでいただき、延べ75名の参加がありました。

アンケート結果からは、ほぼ全員がこのワークショップを通じて職人さんと接し、そのわざを自分の目で見て作品に触れ、作品をつくったことでものづくりが自分ごととなり、芸術性の高い伝統的な作品に興味を持ったことがわかりました。

参加できなかった子どもたちにも芸術性を育み、区の伝統的なものづくり文化を支える人材育成につなげていくため、映像として記録し、教材の動画を制作いたしましたので、ぜひご覧ください。

(動画上映)

ありがとうございました。これで区役所からのご説明は以上となります。

○和田議長

それでは続けて、部会からの報告にまいります。最初に、くらしの安全・安心部会から報告をお願いいたします。よろしくお願いします。

○川端（麗）委員

川端です。くらしの安全・安心部会の報告をさせていただきます。よろしくお願いします。座って失礼いたします。

資料2のくらしの安全・安心部会からの報告なんですけれども、平成30年度は、地震と台風の被害がありましたことから、前回の部会の中でも議論の中心は防災に関することでした。では、1項目めから報告させていただきます。

地域の自主防災力の強化についてです。

自主防災力を強化していくために、地域防災リーダーの研修会を6回実施しているというご報告、異南地域からのご報告がありまして、ただその研修会に参加して、それで終わってしまっている感じがするというご意見がありました。参加してそれで終わってしまっているとなると、自主防災力の強化につながっていかないのではないかという懸念が出されました。

次に、２点目についてです。

避難所開設と装備品について意見が出されました。台風21号、24号で大きな被害を受けて、今後地震による避難所の開設以外に、台風の場合にも、積極的に避難所を開設するのかどうか、そして装備品の強化で具体的にどんなことを考えているのか教えてほしいという質問が出されました。

区役所からの回答としましては、去年の台風21号の際は、なかなか市からの開設の指示がなかったために、区独自で開設の判断をして混乱したことがあったということなのですが、今後は市全体のルールの中でも区として判断できるところは的確な判断のもと開設のルールづくりをしっかりとやっていきたいということでした。

避難所の装備品の強化については、ある程度の物資の確保はしていくということと、去年の災害を通じたご意見を受けて、LEDのランタンやIP無線機などの装備も進めていきたいとのことでした。また、台風24号の際にはラジオも配備したが、今年度はタブレット端末を避難所に用意して情報収集をする手法も進めていきたいとのことでした。

では、２ページ目の内容について報告させていただきます。

避難所の被害と今後の対応について意見が出されました。大切なこととして、小学校、中学校の避難所にブロック塀のひび割れや体育館の屋根など大きな被害が出ている、これらの避難所において、ブロック塀の点検はどうだったのか、また、小中学校の耐震調査はどうだったのか、今後の問題として、トイレの洋式化や、体育館の空調があるが、その計画はどうなっているのかなど、やはりきちんと報告をして今後の計画を立てるべきではないかと懸念しているというご意見でした。

それに対して区からの回答は、ブロック塀については、順次、市の教育委員会のほうで対応して工事を進めているということでした。耐震に関しては、小中学校の耐震検査は全て終わっているということです。トイレの洋式化については、学校施設として順次進められており、災害時には各避難所に対して、簡易トイレが一斉に設置できるような協定も結んでいると聞いている、体育館の空調に関しては、市でも各区に1校ずつ空調をつける動きがあり、生野区も中学校1校に設置する方向で進めているとのことでした。

次に、要支援者の避難計画についてです。

災害は必ずやってくる、いつ来るかはわからないという中で、要支援者の方の避難計画をどのように進めていくか、どういう計画を立てているのかというご質問がありました。

区からの回答としましては、要支援者の方々の避難については、各地域の見守りの取り組みについて、情報共有会を実施していると、今後も継続して地域の皆さんとの顔つなぎができるように進めていき

いというご回答でした。

続いて、災害に対する意識について、これは去年の台風で実感されたこととして、住民自身がやはり大変なことがこれから起きるという認識だったりとか、自意識が足りないのではないかということ発言されました。毎月地域で定例会などもあると思うけれども、住民には余り伝わってこない、そういう台風であつたりとか、地震への認識というのをもっともっと高めていく必要があるというご意見が出されました。

具体的にこういうことが考えられるということで3ページの内容に入るんですけども、例えば、自分でリュックサックに何かを詰めてみるといった問題をちゃんと認識できるような方法であつたりとか、何回もシミュレーションをしているんなことを伝えていってほしい、また、夏祭り、こういった行事を活用して啓発活動、防災マップ等について配れるものであれば配らせていただける、何でもそういう協力はできるので、防災も含めて区民に浸透していけるような取り組みをしてもらいたいということでした。

続いて、この防災に関することで避難マニュアルについてです。

今後の取り組みの中で、地震のときの避難のマニュアルと台風のときの避難のマニュアルが2種類要るのではないかというご意見が出されました。地震の場合は長期で、台風の場合は24時間ぐらいで終わるので、そのあたりを分けて対策をしていけばいいと思うということでした。

続いて、内容がかわりまして、事故の防止について議論が交わされました。

最近、自転車の事故が多く、非常に自転車のマナー違反が多い。二人乗りや左側通行を守らない、信号無視や携帯電話で話しながらの運転、子どものヘルメットの未着用など。桃谷商店街では、自転車を歩いて押してくださいと放送をしているが、それでも乗っている人が非常に多い。

交通安全週間の取り組みが何回か実施されているけれども、自動車为主な対象となっているように思われるので、1週間行うのであれば、その中で1日だけでも自転車を重点的に取り組んでいただきたいとの回答でした。

次に、子どもが事故に巻き込まれる、交通事故の報道等があることを受けまして、生野支援学校の生徒さんたちが、小学生、中学生ができるだけ集団登校で通っているが、新しい道ができたことにより車がふえて、結構スピードが出ているので非常に危険を感じる。実際のルートが子どもたちにとって安心なのか、安全なのかというのも一度お話をしていただければと思うというご意見が出ました。

それに関しては、通学路は、基本的に学校長が判断するとのことで、

早速こういう声があるということを区として学校長に伝えて、どういう方針なのか、より安全な方向で考えていけないということを考えていると思うとのことでした。

続いて、外国人住民とのコミュニケーションについてなんですけれども、近隣の5階建てのマンションで外国人の居住者が大人数になっており、地域住民としては、何とかコミュニケーションを図りたいと思うが、なかなか図れていないという実態が報告されました。

コミュニケーションの必要性は感じていても、その最初の垣根が超えられないのが実態になっていると。何かいいアドバイスがあれば教えてほしいというご意見でした。

マンションの場合は、管理者を通じて居住者の外国人とつながったり、マナーやルールなどの必要な情報を伝えたりする方法もあるということ、そして生野区は、やさしい日本語の取り組みを進めており、やさしい日本語は翻訳アプリで正確に翻訳されやすい利点もあるということの回答がありました。

日常でのやりとりであったり、コミュニケーションをどのようにとっていくかがとても大切で、地域において、外国人とかわる機会を少しずつとっていただいている事例をまち協のブロック会議でも紹介するなど、情報発信や情報共有をさせていただく機会をふやしていきたい。生野区は、日生日本語学園と協定を結んでいるということで、そういった場も提供できるのではないかと、そういう相談には応じたいという回答でした。

続きまして、いまざとライナーの乗車数について、たくさんの方が乗っているかどうかというところで、この質問に対しては、大まかな数字では、大体平均1台に10人ぐらい乗っているということです。いつも通るたびにのぞかれているというような話もあったりしたんですけれども、4月は大体1日1,200人から1,300人で、利用率、利用者はだんだん増えてきている状況とのことでした。

そして、このいまざとライナーの周知についてなんですが、広報いくのでいまざとライナーのことを掲載していたかどうかというご質問でした。

その質問に関しては、広報いくの3月号に路線図と一緒に掲載されているということで、今後もできるだけたくさんの人に届く範囲でまた告知をしていきたいということでした。7月号では夏休みイベントの特集もあるということで、いまざとライナーでイベントも紹介したいということです。

最後になりますが、各種検診の受診率について報告させていただきます。

特定検診、がん検診の受診率について、大阪市はとても低いけれども、その中でもさらに低いのが生野区である。目標の立て方について、

何パーセント上げるんだという計画を持ってしっかりやっていかないと受診率が上がらないのではないかというご意見が出されました。

毎年度の区の運営方針の目標設定の必要性から目標を立てており、医療機関をあわせた受診率は、平成33年度に市の平均に追いつくという受診率の目標を掲げてやっている。

今年度については、他の区でやっているような新しいやり方を取り入れたり、いろいろ試行錯誤をしながら区民の皆さんに検診を受けようという意識を持っていただくように努力するとのご回答でした。

以上でくらしの安全・安心部会の報告を終わらせていただきます。

○和田議長

川端委員、どうもありがとうございました。

続いて、こどもの未来部会からの報告をお願いいたします。清水委員、よろしくをお願いいたします。

○清水委員

こどもの未来部会のご報告をさせていただきます。委員の清水です。よろしくお願いいたします。6ページを開けてください。座らせていただきます。

主なご意見ですけれども、最初のほうは学校再編の整備計画についてのご意見でした。

四角の中に書いてありますが、地域によって温度差がすごく、知らない保護者もおられるとのこと。もっと話を聞く場が増えないと、知らない保護者がまだたくさんおられるのではないかというご意見でした。

これに関連して、このページの一番下の四角で囲んでいるご意見も一方でありました。学校再編のことにに関して、区役所からたくさん説明も聞いていますし、説明の場もたくさん実施されておりまして、情報をとりに行かない人たちが聞いていないというのは、ちょっと違うのではないかというご意見もありました。もうちょっとその場に行つて話を聞くべきではないかということです。

この学校再編のことにに関して、6ページの上から2つ目の四角をご覧ください。学校設置協議会の目標が4中学校区ということで、評価として実績は3中学校区で目標未達成という報告がありましたが、これに関して、ちょっと違和感を感じるというご意見でした。そもそもその目標設置というものがどういう根拠だったのかという疑問を提示されまして、それに関して、区役所からの回答については、この目標設定というのは、前年度の目標から、さらには上になるような形で目標設定を行っておりますという説明でありました。

次の四角をご覧ください。平成30年11月に中学校区学校設置協議会が設置されましたが、これに関して不参加、地域の中で不参加の地域もあるということで、どういうふうに働きかけをしていくのかという

ご意見です。

区役所からの説明としては、統廃合に関して納得し切れていない部分や通学距離の問題や残された学校跡地の問題など、いろいろ不安な部分もある中で、これから相談をしながら皆さんと一緒に取り組んでいきたいというようなお話をいただきました。

次のページをご覧ください。7 ページです。実際に先ほど映像、写真でご覧いただきましたように、桃谷中学校がこのたび開校されました。その経過に携わった方からのご意見というか、閉校式のときの状況のお話を報告していただいて、みんなで支えていけるようにしていきたいというご意見が出されました。

次に上から3つ目の四角ですが、学校・生徒の風紀についてということで、PTA協議会の関係の方からご意見をいただきましたが、もともとその学校にかかわっていたことのある保護者という方からご意見がありまして、学校が荒れているということだったんですけども、PTA全員で学校に関し、交代で見守って、3年間行って、子どもたちも変わってきましたということで、保護者が見守るということも大事ではないかということでした。

また、中学校の先生の言動や態度というものも非常に気になるところがあるので、一体これはどういうことなんだろうかという現状の報告というか、ご意見もありました。

この未来部会の中でも目標設置とか計画という、そういったものはないんですけれども、区として区長から説明いただいたんですけれども、区の担当教育次長として生野区内の公立小中学校、幼稚園に対しての学校施策の後押し、評価という役目がありますので、実際に学校に出向いて校長先生のお話を伺ったり、地域の方々の意見を伺ったり、そういった活動を通して、学校のほうに返すようにしていますというご回答をいただきました。

続きまして、各取り組みの目標達成ということで、さまざまなところからご意見がありましたが、生野区内、生涯学習の発表について、すばらしい展示が行われていますというようなご意見がありまして、8 ページに行きますが、そのほかにも子育てに関して、“いくのde育への”というホームページ、ウェブ上の情報に関しても、アクセス数かなり伸びていきまして、そのほか、生きるチカラを育む絵本プロジェクトというイベントに関しても、参加者がとても多く来られており、非常にこういったイベントが活発になっていいのではないかと。ただ目標に数値が達成した、していないという言葉でくくられてしまうと、何かちょっとあっさりとしてしまってもったいないかなというご意見も一方ありました。

続きまして、人材バンクの活用についてということ、これは学校教育に関することなんですけれども、子どもたちが授業でわからないこ

とをそのままにしておく子どもが多いのではないかと。授業が終わったときに、すぐ質問したり対応できるようなシステムがあればいいのにということで、そういったことに対応できる大学生とか、あるいは人材だけではなくて、図書館という学校にある資源なんですけど、それが有効に活用できていないというところで、司書の方が来ていただけたらとか、そういうようなご意見も出されました。

続きまして、子育て支援の取り組みについてですが、かつて生野区は主任児童委員も多くて、なかなか意見をまとめるということが難しかったんですけども、子育てイベントできるかなと思っていたところ、5年ほど前から区役所の子育て支援室にご協力いただけて、イベントというのが開催できるようになって、それも3回もできてとてもよかったという、こういった子育てのイベントができるようになったんですけれども、実際現状を振り返りますと、子どもが小学校に入るころになると、よその区に引っ越してしまうというパターンが実際多いのではないかと。次のページに移りますが、そういったところで、とても残念に思います。

ほかに居場所という形で子どもたちの居場所をつくってあげて、貧困というだけではなくて、お金があるなしにかかわらず、みんながいれる場をつくるということも大事ではないかというご意見でした。

最後ですけれども、外国の子どもたちへのやさしい日本語についてということで、大池中学校では、いろいろな国の子どもたちがいらっしゃって、日本語が全く話せないという方もいらっしゃる中で、生野区として推進しているやさしい日本語ということをもっとどんどん進めていったらいいのではないかというご意見でした。

以上で報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○和田議長

清水委員、どうもありがとうございました。

続いて、まちの未来部会から報告をお願いいたします。田中委員、よろしくお願いいたします。

○田中委員

6月3日月曜日、まちの未来部会が開催されましたけれども、そのご報告をいたしたいと思います。委員の田中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。座らせていただきます。

まず、生野のまちの魅力として考えられる匠、地域の匠、ものづくりの技をお持ちの作品のこと、それからもう一つは、ものづくりをしている実際の企業のこと、それから生野区の多文化をかもし出している外国人のお話、それから長屋がたくさんあるんですけれども、長屋で空き家であるとか、そういったものの対策とそれから利活用、大きくはそれだけの話題がありました。

まず最初に、高校生のインターンシップについてなんですけど、こ

の地域のものづくりの匠のところに、実際に高校生がインターンシップに行くんですけど、結構数が目標達成に至らなかったということで、なぜだろうというお話が出ました。

先ほどのビデオでも切子とか、ガラス工芸とか、唐木細工とか、ものすごくすばらしい技術をお持ちの方がいっぱいいらっしゃるということなんですが、なぜインターンシップの数が達成に至らなかったのかというところで、もう少し例えばチラシ等で宣伝をすることもできるだろうし、PRを十分にできていないのかなという話、それからものづくり百景というリーフレットがあるというお話があったんですが、それをパネル化して、例えば生野区の工業高校の廊下に並べるなどしてご案内するとか、そういう方法もあるんじゃないかとか、いろいろ話が出ました。

行政からは、目標達成に至らなかったのは、今回ちょっとハローワークが開催するイベントとたまたま重なってしまったというところで、ちょっと目標達成には至らなかったんだけれども、積極的に見直すというようなご意見がございました。

あと、委員の方からいろいろ非常に貴重な意見なんですけど、たくさんの方のインターンシップ、100人とかがインターンシップをしても、誰も就職しなければ意味がなくて、うち1人でも就職する人が、ものづくりに関して就職する人がいれば、それはすごい重要で、評価項目の中で地元での就労という、就労の部分については大切に重きを置いた評価方法が必要ではないかというご意見があったり、あるいはインターンシップは、果たして就職を目標にして参加している学生さんなのか、あるいは単に体験するだけで終わっているのか、ここのところのちょっと参加の動機みたいなものもわからないということで、どんどんやっぱりインターンシップを経験していただく人が増えればいいのになというご意見がございました。

次に、11ページのところなんですけれども、行政からは、大阪テクノマスターという制度があるので、そこで選ばれた方はものづくりのマスターということで表彰されています。これからの子どもたちにもものづくりの楽しさやよさを知っていただくということだと思っているというお話がありました。

日本の伝統的な文化、ものづくりなんですけれども、別にものづくりだけではなくて、外国の方でもやっているという例もあって、工業高校とかに限らず、いろんな学校、高校にアプローチして行って、今の進学というのは、大学とか専門学校とかって選択肢が少ない中で、ものづくりをやってみようというような気持ちになっていただけるような、そんな参加者を増やしていくことができたらいいなというご意見がございました。

こういったすごくものづくりの匠の技を伝承していくといった方法

以外に、ちょっと今危惧されるのがこうしたものづくりの企業がどんどんと百景の中でもそうなんですけれども、例えば、掲載されているものづくりの中で、だんだん辞退された会社が増えてきたり、やめられたりというところが出てきているのではないかとということで危惧されています。

実際に、何かお話があったのは、工業統計調査というのがあるんですけども、去年は1件、今年では3件が廃業ということで、生野の管内で30件ほど回っているだけでも3件がもう既に廃業していて、なかなか新しく業を起こすという話は聞かない状態なので、どんどん減る一方だと。これだけ技があるのに減っていくというのは、非常に残念だというお話がございました。

そういういいところと悪いところというか、残念なところというご意見が出てきました。

12ページのところに入りまして、くらしの安全・安心部会でもお話しがあったように、外国人の方、災害が発生したときに非常に不安で、その対応をどうすればいいのかというお話が出てきました。実際に言葉がしゃべれないので、どういう対策をとったらいいのかというのはなかなか難しいということでした。

こちらのほうでも、行政からやさしい日本語の取り組みを始めているということで、ステッカー、日本語だけじゃなくて英語、中国語、韓国語、ベトナム語、そういった翻訳がされているということで、バッジも2種類作成しているということです。

あと日生日本語学園の方と包括協定を結んでいるということなので、多言語ということにも取り組んでおられるということです。

こういったことで、日生日本語学園の協力をいただきながら、地域でもいろんなイベントを一緒にしていくとかをされているということです。

何かボイストラというスマホの翻訳アプリも役立ちますよというアドバイスも伺いました。災害時のやさしい日本語でのツイッターのやり方とかフェイスブックでの発信も実際にやっておられるということで、ちょっと参考にさせていただきました。

あと外国人の方増えてきて、コンビニエンスストアでも結構いらっしゃるということなんですけれども、外国人の方とのコミュニケーションの仕方をどうするかというところは、意見がございました。例えば、ほとんど外国の方、例えばベトナムの方もいらっしゃるんですけれども、コンビニに行くと、そういった方と日常会話を積極的にしていますよというご意見であるとか、あるいは日生日本語学園からいらっしゃる生徒さんに関して、新しく入居する際に生活マナーを書いたものを地域から手渡しているというようなお話もございました。

最初は、夜中に非常に騒いでうるさかったんですけども、こういっ

た生活マナーというのを地道に地域の方が書かれて、お手渡しすることで最近では静かになってきたというような意見もございました。結構積極的に働きかけないと相手はかわっていかないよというご指摘もありました。

あとちょっと画期的な話で、中川地域なんですけれども、災害対策用にイージートークという翻訳機を2台購入されたということで、これなんかは、Wi-FiとかSIMカードとかでもネット通信環境が必要なんですけれども、海外でもテストしたとおっしゃっていました。きちっと使えましたよということで、災害が起こったとき、あるいは犯罪、病気になるなど、やっぱり一番不安なのは、国から来られた外国の方で、不慮のときに、困ったときに使えるということです。あとイベントにも利用できるということです。

そういうことで、少し以前から外国の方、近隣で騒いだりマナーを守らなかったりということで、非常にマイナス思考でとらえていたんですけれども、ちょっとずつそういう歩み寄りをすることによってネガティブなイメージがだんだんとポジティブなイメージになっていったというようなお話がございました。済みません、長くなって。

空き家対策についてなんですけれども、これについては、ある委員の方からご意見がございました。空き家になっているところを地主の方が放置されていて、そこに電化製品を捨てるといふようなところがあったそうです。電化製品は半分山積みぐらいになっていて、覆っていて、ひどい状態になっていて、こんな状態だと放火も心配だということで、何かいい方法はないかというようご意見がございました。

これに関して、行政は大きな課題だと認識していますが、特定空き家ということで、強制的に危険な空き家に関しては指導を行っているんですけれども、ただ、問題は複雑化していて、地主の方だけじゃなくて、そこに電化製品を放置するといった方、別の方もいらっしゃるということで、複数の問題が重なって出てきているところでの対策というのは、非常に難しいというようなことです。そういった中で、コミュニティもやはり役所、行政の人と共有しながら解決が望まれるといったようなお話がございました。

実際に、大阪市でゴミ屋敷条例というのがあるそうなんですけれども、これまで適用されたのが1件だけだということで、こういった問題は増えていくだろうということで、ちょっと危惧していると。

そういったマイナスなイメージなんですけど、最後に、14ページのところの空き家の利活用に関して、委員の方から紹介されましたのが毎月19日に生野の日ですね、この地に空き家カフェというのを民間主体で開催してまして、実際にその空き家の活用事例を見学にまち歩きをしたり、現場に行って出向いたりして、皆さんの意見を伺いながら活用方法の相談にのったり、活用しようというような意気込みを持っ

たりというような試みがされているということです。

こういったような利活用に関して、積極的にアクションを起こしているような事例もあるということです。空き家の対策とその利活用という両面からやっていくというようなことが意見として出されました。

最後に、広報いくのの広報紙とプレスリリースの区が主体になって広報するようなお話なんですが、広報いくのですね、すごく魅力的になった広報いくのは、全戸配布されていまして、全戸配布されることは、新聞をとっていない家には非常に効果的だというような意見もございました。

プレスリリースの内容について、生野の魅力の発掘・浸透のプレスリリースだけでも、どのような内容でプレスリリースしているのか教えてほしいということで、やさしい日本語を始めるときや去年の12月に外国人の方とこういうイベントをした、あるいは子育てのイベント、こういった、いくのっこ広場ですね、こういったこととか、生野ラグビーフェスティバル、こういったことをプレスリリースしていますよという行政からのご案内がございました。

すみません、長くなりましたが、以上です。

○和田議長

田中委員、ありがとうございました。

ただいま区役所からの説明と各部会からの報告がありました。

これから委員の皆様にご意見交換をしていただきますが、限られた時間でより円滑に意見交換をしていただくように、私のほうから学識委員を代表して田中委員にファシリテーターをお願いしたいと思いますので、田中委員、どうぞよろしくお願いいたします。

○田中委員

議長からご指名いただきました田中でございます。これから委員の意見交換をお手伝いさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。座って失礼します。

それでは、先ほどの区役所からのご説明であるとか、部会報告などについて委員の皆様から何かご意見とか伺いできれば非常にうれしいと思います。

ご意見いただくときは手を挙げていただいて、お名前を言っていただければありがたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。はい、お願いいたします。

○猪股委員

舍利寺地域の猪股と申します。よろしくお願いいたします。

私は、学校再編のことについて質問させていただきたいんですが、去る6月4日の火曜日に大阪市議会におきまして、教育こども委員会がありました。

私、最初から最後まで傍聴いたしまして、その質疑の中で、大阪市の教育委員会の教育長がこのような状態になっている現在、これは一度冷却期間を置くのも1つの考えだと思うと、このように強くおっしゃっておられました。

学校再編は、再編ありきで突っ走るのではなく、教育長がこのように話をしていることを鑑みていただいて、一旦立ちどまって、そして冷静に話をする機会を設けると、このように強く進言したいと思いますが、いかがでしょうか。

○田中委員

すみません、それについては、ご意見、どなたかに何か話を伺ったほうがいいでしょうか。

○猪股委員

私は、行政の一番身近なこの問題で、担当しておられる山崎課長にお願いしたいと思います。

○田中委員

いかがでしょうか。何かそれに関して、ほかの方からご意見があれば、ご一緒に意見、質問をしていただければなと思うんですけれども、いかがでしょうか、どなたか。はい、お願いいたします。

○室谷委員

室谷といいます。今、子どもたちをめぐって大変な事件、事故が相次いでいます。私は林寺小学校の見守りしているんですけれども、今週もずっとお母さんたち4人、5人が一緒に、子どもたちと登校している状況です。これはどこの校区もこの不安はあると思っています。このことにかかわってくるのは、やっぱり学校統廃合の問題だと思っています。

今子どもたちは、小学校では一人で校区外に出ないというようになっていますけれども、生野中学校区でいえば、4つに地域が広がるわけですね。4つ、それだけ危険のリスクが増える、大変なことだと思っています。

それで、この学校統廃合で、生野区だとか教育委員会は、丁寧に保護者の話を聞くというふうに言っていたんですけれども、ところが、今、猪股会長からもありましたけれども、この生野中学校区では、再編が4校なのに2校だけで設置協議会を開いて、それで問題になったのは、この生野校区のブログで担当課長ですね、生野区の、この当時は井平課長と山崎課長代理が実名で出て、生野中学校区の開校が決まりましたと、こういう発言がブログであったということで、2月、3月議会で大きな問題になりまして、このことについて、ブログの訂正はされました。けれども、5月議会のところでは、改めてその訂正の確認と生野区としての責任はどうなんだということがありました。

生野区のホームページでも、きちっとそのことについて載せるべき

だということで、この6月6日付で学校再編にかかわる情報発信についてのおわびというのが出されています。先ほどの2月、3月議会のところでは山口区長が誤った情報を伝えましたということで、謝罪と反省をされています。

私、こういうことが今どんな状態になっているのかといいますと、この学校再編が決まった決まったということで、例えば、あるお母さんに聞きますと、一人で西生野は行けないと、車で行かなければならないという問題だとか、ある校区では10人近くがほかの区ですね、生野区以外のところに行ったということまで聞いています。

決まっていなのに決まったということの中で、お母さんたちの思いだとか、生野区外への流出が始まっているという、大変な問題だと思っています。

だから、今改めて5月議会のところで4つの連合町会長と1小学校のPTA会長の陳情書が出ましたけれども、しっかりこの区民の声を聞いて、一回立ちどまって生野区の教育まちづくりを考えて行くべきではないかと思います。

それで、山口区長に聞きたいのは、生野中学校区、西生野、生野、舍利寺、林寺、この学校統廃合は決まったんですか。あるいは他の田島中学校、生野南、田島小学校の学校統廃合は決まっていますか。大池中学校は決まっていますか。あるいは鶴橋、勝山中学校区の学校統廃合計画は決まっていますか、今の時点での状況をぜひしっかりこの場で発言をお願いしたいと思います。

○田中委員

ありがとうございます。そういったご意見がある中で、例えば、こどもの未来部会でのお話というのは、何か意見としてございませんでしょうか。

ご報告の中では、比較的いろんな意見が出てきていたようだけれども、それはいかがでしょうかね。何かそういう話は出ていましたか、特になかったでしょうか。

特に出てきていなかったようですが、そしたら行政の方、お願いいたします。

○山崎生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

ありがとうございます。地域活性化担当課長の山崎です。ご意見ありがとうございます。

今ご意見いただきました、まず猪股委員のほうからございました6月4日の教育こども委員会の質疑ということでございました。

一旦立ちどまって冷却期間を置くのも1つの考えではないのかということもご意見ということでいただいたところです。教育長も答弁させていただきます。

その際にも、教育長もちょっと話をさせていただいていたんですけれども、やはり子どもの教育環境というところ、やっぱりこれも大事な問題だと思っております。そのあたりも含めて考えていきたいなと思っております。

それから、室谷委員からもいろいろご意見いただきました。生野地域のほうのブログのほうですね。私のちょっと軽率な発言もございまして、誤解を招くようなことをちょっと言ってしまうと、結果的には、この地域の方にそれを僕が話した内容をそのまま掲載したことで、生野地域の方に本当にご迷惑かけたと思っております。この場をお借りして謝罪申し上げます。

中学校区の再編ですね、まず生野中学校区のほう、今現在委員のほうからでもございましたように、4つの校区ございすけれども、協議会に参加いただいているのは2つの校区ということで、今はっきりその協議会に参加していただいているのが令和4年の開校を目指すということが決まっているわけですが、再編するというところで、これが決まるとなりましたら、当然、大阪市会の条例ということで、市会の議決がないと決まらないという話なので、決まっているのかと言われまして、決まっております。

また、田島中学校区でありましたり、大池中学校区、桃谷中学校区の小学校の再編というのは決まっております。子どもたちの教育環境改善ということに向けて我々取り組んでまいりたいと思っています。

一方で、当然地域の方、それから保護者の方のご協力、ご理解のない中でなかなかいい学校も作っていけないと思っております。いろいろお話も聞かせていただきながら、ただ一方で、全ての方が賛成いただけるということにもならないというのも現実だと思っております。皆様のたくさんの方のご理解をいただけるように、いろいろ意見交換をさせていただきながら進めさせていただきたいなと思っています。以上です。

○田中委員

ありがとうございます。こども未来部会のお話でも出てきたと思うんですけれども、いろんな方のいろんな立場やいろんな考えがあるということで、その意見がある程度、みんなで解決のために話し合う場を用意する必要があるというようなことが言われていたと思うんですけれども、これに関して、そういった意見の場に出てこれないお父さん、お母さんがいらっしゃるということで、まずは同じテーブルにつくことができないのは残念だねというようなご意見もあったかと思うんですけれども、それに関して何かもしご意見があったら、こんな方法もあるよと。

この場は、いろんな提案していただくとか、いろんなアイデアを考えていただく場所なので、もしいろんなアイデアとか、こんなふうに

したらいいよねというご意見がございましたらご発言いただければありがたいかなというふうに思いますけれども、ご意見言っていただくほうがありがたいので、こんなアイデアというのがあれば、それを考えていけるかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

いろんな方の参加を募って、これもこうしたチラシだけじゃなくて、口伝えとか、SNSも使いながらいろんな人に出てきてねということやっていらっしゃると思います。区民の方、皆さん熱心なので、それでも来られていない方もいらっしゃるということなんですが、何かいい方法はないでしょうかね。ご相談したいと思って、ご意見言っていただければありがたいんですけど。

いろんな立場の人がいらっしゃると思うんです。少数だからとか、多数だからとかというような数の問題ではなくて、子どもたちの教育の質をどうするかというところがちゃんと話し合うことができれば、再編というのはなし得ないと思うんですね。そこのところの施設の問題じゃなくて、教育の質の問題をどうするかというところの話し合いをみんなで、先ほどもおっしゃったように安全の問題、保護者との関係、そういったことをやはり話し合う場をつくっていかないと、前に進まないというか、やるやらないも決まらないと思うんですけれども、何かそういうところの工夫とか、多分行政だけでは知恵も限られてくると思うので、皆さんのご意見を聞かせていただきたいなというふうに思います。いかがでしょうか。お願いします。

○服部委員

西生野の服部です。前回もこの中学校の統合問題も会合のとき、私ちょっと町会の用事で出られなかったので内容はちょっとわからないので、今何か聞いていると、何かちょっとストップしたんですか。

○山崎生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

いえ、ストップしているわけではないです。

○服部委員

ストップしていないんですか。ちょっと私その内容がわからへんもので、どうなったかなとわからんですけれども、私いつも言っているんですけれども、反対は反対でいいですよ。私も全員でもって賛成、賛成って言っていないですけども、反対は反対でいいんです。反対だったら反対のね、なぜ反対しているかということが全然わからないんです、私らに。

来てもらって、私はこういうところでこうこうで反対しているんやと、だから、その反対にみんなでええ知恵出し合ってええところをとっていったらどうかなと思ったりもするんですけど、それを前も出てきてもらえないから話もできない。

だから、反対、反対と言うけど、出てきてもらってその反対の言葉

を出してほしい。それによっていい案があれば、それを賛成して一回ひいたら、でないと前に全然進まないと思うので、出てきてほしいなと、私はいつもそういうふうに言っているんですけど。

○山本委員

東桃谷の山本です。私の地域では先ほどからお話出ていますように、勝山中学校が桃谷中学校になりました。その過程ではやはり委員会を設置しまして、何回も会議を行ったわけですが、もちろん両区のPTAの方、それに各地域から地域代表としていろんな人に出てきていただいて、いろんな話をさせていただきました。

皆さんから意見を聞いて、それを1つ1つ解決はできたかどうか分かりませんが、納得していただいて、特にPTAの方が頑張っていたいて、遅くまでいろいろ議論されたようです。1つ1つ問題を解決して、今日に至っております。

ですので、ここで反対とか賛成とか言うよりか、やはりその現在学校に行かせているご父兄の方とか、そういったことで協議会も設置されているということを知っていますので、本当にそこでいろんな意見を出してもらって、1つ1つ詰めていって、できないことは、今おっしゃったですけど、できないことはできないでやっていったらいいかなと思います。

ここで時間だけ過ぎても恐らく結論は出ないと思いますので、はい。

○田中委員

ありがとうございます。ここで発言されたということは、とても重要で、どういう思いで考えていらっしゃるのかとかというのがわかれば、それを大切にしながら進めてというか、やるやらないも含めて考えていきたいということなんでしょうけれども、そういうこの場はやはり本音を言っていただいて、それで何かいい策はないかという提案をしていただくという場なので、どうか何でもいいですので、こんな方法があるよというご提案があれば、言っていただければなというふうに思います。

教育の問題も含めて、多分いろんな、3つあったと思うんですけども、3つの部会で全てやっぱり子どもの教育というのは、出てきたと思うんですね。とても大事なことなんです。

それで、今インターンシップの話もあったんですけども、果たしてその小学校、中学校、高校とあって、もう高校生というのは大学に行くか、就職するか、専門学校に行くかしか選択肢がなくて、それ以外のことで自分はこういうことを作るのが得意だとか、そういう子どもは案外と小さくなって、教育の中で小さくなってしまっているというのが現状だと思うんですね。

その中で、そういう不登校とか、そういういわゆる問題を抱えている子どもたちがいなくなるような学校づくり、どういうふうにしたら

いいのというところをやっぱり考えていかないといけないので、もしご意見があったら聞かせていただきたいなというふうに思いますが、お願いいたします。

○室谷委員

子どもたちの問題だとか、それから今しようとしている小学校の問題ね、これしっかり話をすることが大事だと思っています。

今、僕がご発言させていただいたのは、そのそういう話し合いをしっかりとやる場がなくなってしまうと、この陳情書は、不正常な運営でやられている。例えば生野中学校区で言えば、2校しか出ていないのにどんどん設置協議会を進めていくというふうなことだとか、それから田島中学校区の問題でも、もう先に30年度から実施設計予算を立てていくだとか、そういう状況になっている。

統廃合が決まっていらないのに決まっている、決まっているという形で言っているところに大きな今問題が出てきてということを僕は言いたかったのだ、そのことでお母さんたちが悩み、校区から、生野区から区外へ10人も出ているという状況が起きているということです。この問題を言いたかったんです。よろしくお願いします。

○田中委員

ありがとうございます。皆さん、思い伝わりましたかね。どういうことで反対されているのかということ、だから教育のことは大事だけれども、まずは進め方とかをどうしたらいいのでしょうか。満足のいくようなやり方というのは、どういうふうにしたらいいか、ちょっと聞かせていただければありがたいかなと、失礼かもしれない、ものすごく失礼なことを言っているかもしれないけれども、いかがでしょうか。お願いいたします。

○猪股委員

先ほど委員の方が協議会へ出てきて反対の意見を言ったらどうだと、こういうふうにおっしゃいました。振り返ってみると、私この区政会議でも申し上げたと思うけれども、平成29年11月24日に11名の方が陳情書を出されました。これは12月の暮れにあつという間に採決、採択されました。12月21日の火曜日に御用納めの1週間もないときに、ばたばたと準備会が設置されました。

本当は準備会、協議会は舍利寺、林寺、そして西生野、今里、この4つの校区が事前に準備会にあたってスタートするんだという、そういう合意のもとに進めていたら、僕はこういうことはなかった。ばたばたとそのような打ち合わせも何もないままに、12月21日に、私どうしてそういう御用納めの1週間もないときに、そんなばたばたしたのかなと。年を明けてゆっくりやればいいんです。

だから、そういうようなことも私は前から前課長にも、また現課長にもそういうような慌ただしい設置の仕方が今日を招いたんだと、こ

ういうふうに言ってまいりました。

山崎課長に1つ質問があるんですけども、子どもさんの安全は、第一義的なものはどのように考えておられますか。

○田中委員

ご質問ですか、よろしいですかね、お願いします。

○山崎生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

ありがとうございます。おっしゃっておられるように、この学校再編の課題というところに関して言いますと、やっぱり保護者の方が特に一番心配されているのは、通学距離が遠くなることに対して、やっぱりお子さん、特に小さいお子さんになるかと思えますけれども、一人で行けるのかなという話であったり、大丈夫かなという話だと思っています。やはりその部分は、安全ということで対策をしていくことというのは、本当に大切な話だと思っています。

生野中学校区や生野小学校区でありましたり、西生野小学校区のほうに関しましては、実際の新しい通学路案というのもお示ししながら、地域の方、保護者の方も一緒に歩いていただきながら、ここは危険だね、こんなことできないのという具体的な話をさせていただいています。この話をいただいてどんなことができるのかという形でしっかり対策していきたいなというふうに思っています。

やはり具体的な形で進めていくことにより、また不安という部分も解消できるのかなというふうに思っておりますので、1つずつ説明をさせていただきながら、解決という形でお示ししていきたいなというふうに思っています。

○猪股委員

何回もお話聞かせてもらってすみません。第一義的なことは学校が近いということが一番安全なんです。学校が近いということが。ということは、滋賀県大津、また神奈川県のカ崎市で見られるように、やはり学校が近くないということは、どんな問題が起こるかわからないと。そういうようなことを踏まえて進めていただくと。当然そういうような問題をお話しても全く回答がないと。2キロ以下はだめですということですね。だから、1つも前に進まない、私たちの意見を1つも聞いていただいていないと、僕はこういうように何年間もこの問題をこの場にいつても感じているんです。

もう一度繰り返します。準備会も協議会もやはり4校がきちっとそういうふうに事前に話をして僕は進めるべきであったと、準備会と協議会の進め方が軽率であったと。今日の混乱は、私はその発端はそういう問題じゃないかなとこのように強く思います。以上です。何回も質問して申しわけないです。

○田中委員

ありがとうございました。ご意見いろいろ伺って、なぜ反対されているのか、どういう思いでいらっしゃるのかというのがすごくよくわかりました。

それと今までの話をお聞かせくださって、本当に意見ありがたいと思うんですが、ではこれから先どうしていったらいいのかというところは、やはり知恵をみんなで出さないといけないなというふうに思っていて、子どもの安全も本当に親からすると、子どもの送り迎えて、中学、高校も含めて全て時間が、働く時間もないぐらい気を付けて、この前も大津の事件がございましたのでね。

非常に、そういうところも子どもの送り迎え大事だし、安全性の面もやはり近いから、遠いからだけじゃない、安全性の面も考慮しなきゃいけないし、たくさん考えなきゃいけないことがいっぱいあるので、ぜひ同じテーブルで、ここだけじゃなくて、もっと違う、もっといっぱい時間を話せるような、提案ができるような場というのをやっぱり話さないと、この場で限られてしまって、区政全般の話をしないといけないので、またちょっとほかの話もしていけないといけないという中での状況で、本当に申し訳なくて、今回でもいろいろお話しいただいたことは、すごく私感謝しております。

それで、ちょっと別の機会で話し合うということはいかがでしょうかね。

○猪股委員

先生、もう一つだけ、すみません。今先生が言われたとおり、別の機会は、先ほど6月4日に教育長が立ちどまって冷却期間を置こうと、ということは、今は一方的に突っ走っているところで、突き進んでいるところでは話ができないです。やはり一旦それはストップしていただいて、そして先生がおっしゃったように、再結成して、そこで話をするのが私はいいと思います。

協議会、準備会、どんどん突っ走って、もう既に令和4年の3月には学校がなくなるとか、生野区の西側の12の学校の9つがなくなるんです。75%の子どもさんは減ったかもしれませんが、75%の学校をなくすということでは、本当に活性化も後退するし、いつも何回も言いますが、学校にペンペン草が生えて困るとか、クモの巣が生えたと、それを学校の跡地を活用化するために、個人的には私はあなたに謝罪していただいたけれども、実際に大きなお金が使われていると。それを私が問うたときには、本予算ではないということと言われたので、私はそれは失敬やったと、私の認識間違いだと。しかし、実際には本予算が使われた。後で説明して僕は了解しましたが、大きな間違いじゃないですか。

4,000万円近いお金がもう既に費やされたり、費やされようとして

いるわけ。もっとほかに使うことが僕はあります。丸っきり学校がなくなるんだということを決定的にしていることと一緒にやないですか。

○田中委員

よろしいでしょうか。

○猪股委員

もうやめます、すみません。

○田中委員

ちょっとご意見をさえぎって申しわけないんですけれども、手続のことは確かに反省すべき点もあるかと思います。ただ、子どもはどんどん成長していったとめられないので、早くそのどういうふうな方向で教育の質を上げていくか、生野ですって残って子育てしていただけるかというところが大事なので、1年、2年、3年と経つと子どもはどんどん大きくなって、高校で大学へ入る前まで来て、さて子どもは自分はどこで何をしたらいいか、どんな暮らしをしたいかということで悩んでしまうので。はい、お願いします、どうぞ。

○栗信委員

鶴橋の栗信です。先ほどこからいろんな大人の意見が出ておりますが、私前にも言いましたが、本当に子どもの心、育成、それを一番ベースに考えていただいて、いろんなことをやっていっていただきたいと思いますが、ずっと聞いていれば、何か大人の見栄とかプライドとか、いろんなものが感じられてなりません。

やはり子どもの数が減っているというところで、箱庭的な教育を子ども自身が受けてしまった場合、結局は大人になって大変な社会へ出ていったときに、ひ弱な心のままで育つということは、私にはもう考えられないことで、私も前も申しましたように鶴橋中学校のクラブ活動を見にいったときに、少人数でやっていて、子どもの心は本当にこの好きなものに向かって突き進めるのかと。やっぱり子どもたちが挫折するようなことがあってはならないと思っていた矢先に、桃谷中学校という形になって、私は反対にほっとはしているんですが、先ほどから皆さんがおっしゃっているのは、子どもの心を忘れてはいませんか。

区長は、やっぱり里親制度のことを一生懸命なさっているということは、やっぱりいろんな心の傷を受けた子どもたちがどんどん増えているじゃないですか。それに向かって、やっぱり箱庭的な教育を受けて弱い、柔い心で育ってしまっっては、私はいけないと思うんです。

それは安全面もいろいろあるでしょうけれども、それはそれでみんな大人が知恵を出し合っていてこそその教育だと思います。子どもの心を忘れないでしっかりと議論をしていただきたいと思います。

○高岡委員

今のご発言について、賛成です。

○田中委員

いろんな意見がこうやって出てくることが自体が本当に生野ってすごいなといつも私感動して帰っていくんですね、このまちへ来たら。本当に反対意見もあり、賛成意見もある、いろんな意見が出てくることが大事だと思っているので、区政会議の貴重な場をつくってくださったということは、私自身も本当にありがたく思っております。

ということで、時間がなくなってしまって、大人の事情で申しわけないんですけども、ほかに何かこういったことがあるといった、どうぞ、お願いします。

○亀田委員

中川の亀田です。2つほどちょっと質問的なことがあるんですが、先ほども大津の事故でこちらで言ったら、ろう学校前の事故があったんですけど、それについて、ガードレール設置とか通学路の話ともあったんですが、安全点検とかされた場合のガードレールの設置とか、安全面の対策みたいなものを何か区としても取り組みしているのかどうかと。

あと防災計画の絡みで大池中学校で中学校の防災、教室、どこがどう使える、使うとか、小学校何校かあるんですけども、なかなか合同で話し合いする場ができない、そろわないのでできないみたいな形で、地域でも大池中学校のほうは近い、中川でしたら町会があるんですけど、そちらの場合、大池中学校に行ったとしても、今のところ防災計画が出来上がっていないので、どこの教室使ってどういうふうに割り振りしようかというのが全く決まらないまま、どないしたらいいんですかって、毎回防災の会議でやるたびに聞かれるようになってきているので、そこらを区としてちょっとサポートできる取り組みとかをされるのかをちょっと聞きたいので、よろしくお願いします。

○田中委員

では、防災計画についてお願いします。

○井平安心まちづくり担当課長

失礼します。安心まちづくり担当課長井平です。どうぞよろしくお願いします。

子どもたちの安心安全ということですが、この間いろんな事故等が起こっています。大阪市では、子どもたちの登下校の通学路の交通安全プログラムということで、年間4校ぐらいを順次、区役所が中心になりまして、建設局、警察、学校がいっしょになって通学路を点検した上で、危険なところについて、どんな対策がいいのかということを検討させていただいた上でガードレールなど、なかなか難しいところもありますけれども、必要な対策を行っていくという取り組みをして

おります。そういったところを引き続き進めながら、安全対策というのは行ってまいりたいと思います。

あと中学校の防災、避難所の関係なんですけれども、各地域が重なるところもあるということで、一緒になって考えていかないかんということでは進めております。ただ、なかなかうまくいっていないところも実際はありますので、急にこれをやったらうまいこといくというのは、難しいかもしれないですけれども、区役所も中に入らせていただいて、できるだけスムーズにいくような形で関わらせていただきたいと思います。個別の課題にもなると思いますので、また改めていろいろお話ができればというふうに考えております。よろしくお願いします。

○亀田委員

ありがとうございました。

○田中委員

よろしいですかね。ありがとうございます。

ほかに。

○室谷委員

先ほどから言っているんですけれども、子どもたちの教育の問題についてね、どういうそれぞれが思いをしているのかということについて、意見交換はものすごく大事だと思っているんです。

今問題なのは、先ほども述べましたけれども、学校統廃合計画が決まっていないのに決まったということで区長が議会で謝罪するとか、ブログでおわびをするとかというような状況の問題だとか、生野中学校区は本来4校なのに2校で設置協議会、設置協議会というのは、開校時期と新校区を決める場です。それがどんどん進んでいっていることになれば、ますますその分断というんですか、広がっていくのではないかな。そのことについては、一旦立ちどまっていろんなテーマの問題について、子どもたちのことについて話をしたらどうですかということを、この陳情書もそういう趣旨で言っていますので、誤解のないようにお願いしたいと思います。

○田中委員

ありがとうございます。ちょっと私もちゃんと説明、発言できなかった部分や説明できなかったことがあると思いますので、申し訳ないと謝ります。すみません。

ということで、まだまだお話ししたいなと思うんですけれども、時間の都合があって、ちょっともうこれで終わりにするというふうにあるんですけれども、何か一言だけでも言いたいとかいう方いらっしゃると思いますか。はい、お願いします。

○山本委員

参考資料2の事前にいただいたご意見とその考え方ということです

けれども、以前に一度意見は出したんですけど、この区の回答が全然私にとってはなっていないと言うとちょっと失礼かも知れませんが、意図するところじゃないんですね。これちょっとどういうふう to 今後進めていったらいいんでしょうね。

それとも個人的に、例えばここに書いている回答者のところに行って意見を聞くとか。3点出していますけど、1つだけちょっと上げさせてもらいます。一番最後の冷房の話です。資料2の一番最後の6です。私の質問は、区役所の冷房温度は28度に設定していますが、その年度と経緯を、なぜ28度なのかを教えてくださいということで書いてあるんですね。

ちょっとすみません、今日ここの温度、今何度になっているんですか、冷房は。28度ですか。23度ですよ、23度。

○田中委員

すみません、多分、エネルギーというか、省エネのところで言うと、体感温度が28度という設定だと思うんですけども。

○橋本企画総務課長

すみません、区役所の企画総務課長橋本でございます。すみません、ここ23度に今なっているのは事実、ご覧いただいているとおりなんですけれども、会議始める前までずっとここ通常冷房入れていまして、ちょっと下げるために低くしていたのを本来28度にとどめるべきところであったと思います。それはちゃんとできていなくて申し訳ないです。

28度がなぜ28度なのかということのご質問なんですけど、こちらのほうに書かせていただいています大阪市の庁内環境管理計画の中に定められて進めているということなんですけれども、これのもとになっていますのは、環境省から定められています労働安全衛生法の中で、事務所の衛生基準規則というのが定められていまして、その室温の範囲が17度から28度の間にしなさいよと。ですので、暖房するときにも17度より下がらないように、目安にしなさいよと、28度を超えていかなないように目安にしなさいよということで決まっておりますので、この28度というのを、国、府、市とおりにくる中での目安として28度を使わせていただいているということです。

○山本委員

よくわかりました。私は何も私個人的なことでこの質問をしたんじゃないですよ。皆さんが仕事をする上でね、28度でええのかと。今27度と言いましたかな、下は何度でしたか。

○橋本企画総務課長

下は17度です。

○山本委員

それにあわせて仕事のしやすいようにあわせていったらいいんじゃない

ないですか。これできたのは平成11年ですか。20年前ですよ。

○橋本企画総務課長

データといいますよりも、国の法律、労働安全衛生法という法律で一応基準内に下は17度、上は28度というのが基準ですよというふうに定められていますので、それをもとにしているということで、もちろん暑過ぎるときには、先ほどこちょっと田中先生おっしゃっていただきかけたんですけど、外がすごく暑くなると、中はもっと上がりますので28度よりも冷房の機械自身は下げている場合がございます。ただ体感的には28度、やっぱり湿度とかいろんなものも関係ありますので、暑いなというふうに感じるところもあるとは思いますがけれども。

○山本委員

よくわかりました。それはそれで別に構わないですけどね、私は皆さんが仕事しにくいやろうし、ここに来てくださっている皆さん、いすに座って扇風機かけて、扇風機かけるんやったら温度下げたらよろしいのや。そういうことを言いたいということなんです。

○橋本企画総務課長

ありがとうございます。

○田中委員

どうもありがとうございます。時間が迫っているので、これで意見交換を終わりたいなというふうに思います。

どうも拙い意見交換で申しわけございませんでした、私の不徳で。これで意見交換を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

○和田議長

田中委員、どうもありがとうございました。

本日は、現行委員の皆様方の任期としましては、最後の会議となります。つきましては、本日のご意見を踏まえて、関係者としてご出席の歴代議長、副議長からそれぞれご意見等を頂戴したいと思います。

まず初めに、田中様からよろしくお願いいたします。

○田中様

失礼いたします。皆様方の本当に生野に対する熱い思いがここに座っているだけでじんじんと伝わってくるんですが、自分も委員の時代にはいろんな話も聞いていただいて、もうこれ以上ないかなと思っているときに、地域では、たまたま自分が町会長をやりながら、またまちづくり協議会の委員もしながら、今度は皆様方のお話を聞きながら、ここへ持ってきて、そのお話を置かせていただくと、必ず大小にかかわらず、問題の大小にかかわらず、必ずお返事をいただきました。その返事をまた会に持って帰ったときに、早いこと返事くれはりますなと、よろしいなということのお褒めの言葉をいただきました。

この会議は、本当に皆様方の会の役に立っていることは事実でござ

います。これからもどんどんとまた地域の小さなこと、大きなこと、ここでぶつけていただければ、地域がどんどん変わっていくのかなと思っています。

もっともっとお話したいことがあるんですけども、時間が迫っておりますので、次へ回させていただきますが、今回で終わられる方、本当にお疲れでございました。また引き続きお世話いただく方、ぜひまたこの生野の地域のためにまたお力をいただきますようよろしくお願い申し上げます、お礼の言葉といたします。どうもありがとうございました。

○和田議長

田中様、どうもありがとうございました。

続いて、多田様、よろしくお願いいたします。

○多田様

私は、防災ですとか防犯とか安全のほうに非常に関心がありまして、先ほども台風と地震と両方の考え方を持たなければいけないのだという話、まさにそのとおりですね。我々は地震にばかりちょっと意識がとられていました。

ただ、57年ぶりに昨年台風21号が来ました。大阪を避けて避けて、57年間避けて通ってききましたので、大阪は台風ぼけしておりました。だけど21号は神戸を直撃しました。神戸に上がったときは要注意ですよということの証です。というのは、神戸の東側に大阪がある、だから進路がこの前24号みたいに田辺方面に行くと、大阪は全然何ともなかったです。けども、21号、神戸、西宮を台風の中心が通るときは要注意ですよということを貴重な気象情報でこれも事前にわかることですから、考え方としては避難準備ができると思うんです。

だけど、地震は別です、もう即です。大きな地震が来たら避けようがありません。けどそのときには、やはり避難所の開設というのは、非常に我々地域としては考えられます。ですから、今回昨年は21号で避難所の開設ということで、初めて57年ぶりと申しましょうか、36年以降、大阪には被災がなかったわけですから、避難所を開設しました。

その結果、いろんなことを勉強させていただきました。避難所の開設という非常に我々が図上というか、頭で考えていたこと以外にいろんなことが起きてきた、それを勉強ができてということで、非常にこれは区長の采配で、生野で避難所の開設ができたということは、非常にまたそれに対する勉強ができたということは、今後の参考になったかと思っていますので、それはありがたかったことです。今後とも災害に対して準備は怠りなくやりたいと思っています。以上です。

○和田議長

多田様、どうもありがとうございました。

最後になりました、北尾様、どうぞよろしくお願いします。

○北尾様

どうも長時間にわたってご苦勞でございました。

いろんなご意見を頂戴いたしました。皆様方には昼のお疲れにもかかわらず、こうしてご参加いただき、そしてこの3部門から報告をいただきましたけれども、大変ご苦勞をいただいておりますことに感謝を申し上げる次第であります。

今やっぱり生野では学校問題が一番大変であろうと。学校は合併しましても、その学校をなくすということではありませんで、はっきりと地域で運営していただく、そういう委員会をつくっていただいた。そこまではっきりしておるんですから、そのことも踏まえていろいろ言い分はありましようけれども、前向きな姿勢で話し合っていたいただきたいと思います。

長時間にわたりご苦勞いただきましたこと、心から感謝し、これでまた委員が代わるということになりますけれども、それぞれ持ち帰って、こういう話が出たでと、この報告だけはしっかりしてほしい、これは最初から申し上げているわけでございます。ぜひともこの点でのお力添えをよろしくお願い申し上げ、感謝の言葉で結ばせていただきます。ありがとうございました。

○和田議長

北尾様、どうもありがとうございました。

それでは、本日の会議を踏まえまして、山口区長からどうぞお願いいたします。

○山口生野区長

皆さん、長時間にわたりご議論ありがとうございました。そして今回、この委員さんで最後ということになります。その皆様も本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

私は、生野区長になりまして2年半となります、3年目となります。多分、ここに出られている方は、学校再編に関する同じ話を何度もきくと繰り返し繰り返ししていて、いろんな場でいろんな形のプロセスについてのご意見をいただきます。

先日一番びっくりしたのは、私が来るもっと前に、区長がうちの地域に来て、前の区長ですね、こう言うた、地域としてはもうそこで話は終わっている、だから再編の話し合いをする必要がないと言われました。そうしている間に、子どもたちはずっとずっと1クラス、クラス替えのないままで学校にいます。

前も言いましたけれども、私は小規模校の校長を3年間やりました。140周年をやった学校です。その学校をとことん愛していましたし、今も愛しています。1クラス1年生からずっと6年生まで、うまくいっているときは兄弟のように大変仲がいいです。でも、うまくいかないときは本当にしんどいです。あちこちの校長先生からクラス替えで

きるって大きいなというのは、本音として聞いています。

まず、文科省の方針は、2クラス以上の適正な学校規模にすることです。このことについては、私は区担当教育次長として責任を持たなければならないと思っています。その形でありましたり、プロセスでありましたり、いろんなご意見はあると思うんですけども、学校再編自体をなかったことにはできません。

では、何が一体皆さんを不安にさせていて、何が問題なのか、それは保護者の方の通学路、そして校区の広がりに対する安全に関する不安です。

これに関しましては、まずできること、行政としてできることを精いっぱいするつもりでいます。今している話し合いの中では、教育委員会の基準としては、2キロ以内の通学路は何もしないという話ですけども、内々では猪股会長にもお伝えもしていると思いますけれども、12の関わる連長さんにはお示しをしたことがあります。コミュニティ交通、いわゆるバスの検討を始めています。スクールバス単体というのは、絶対に無理なんですけれども、うまく高齢化の方が昼間乗って、朝、夕方子どもたちが乗って、土日観光客が乗るようなコミュニティ交通とかできないかなというようなことも真剣にルートを見ながら、お金の計算もしながら考えていますし、もしこれがだめでも、例えばシティバスのこの区間に乗ることができるんじゃないか、そして、通学路がこれだけ短くなるよねという話でありましたり、帰りにどうやって送っていくか、みんないきいき（大阪市の放課後事業）で楽しく、新しくできた友達とも目いっぱい遊んだ後に、各小学校のところまで送って行って、保護者とそこで受け渡しをすることも考えています。

例えば、その学校が地域に開かれた学校となっていて、年配の方が本を読んだり運動したりして、そこに子どもたちが集団で帰ってくる。私、ずっと子どもの問題やっていますけども、今の子どもって、「お帰り」と言ってもらえていない子が多いんです。私自身も共働きですので、子どもに言えていないです。

そこで、でも地域のお年寄りの方とかが「お帰り」と言ってくれて、そしてちょっと悲しい話ですけども、子どもって図工の作品とかよく持って帰るんです。見てもくれない親がいるんです。でも、そこにお年寄りの方いっぱいいて、見て見てと言ったら絶対ほめてくれるでしょう。「わあ、ええの作ったな、すごいな」って。もしかしたらそういう場になるんじゃないかなというふうに思って、頑張って学校の跡地もいい形で使いたい、残したい、地域の方のみんなのためになるようにしたいというふうに思っています。

ということで、ということであって変ですけども、この問題だけじゃないですね、まちづくりって。ほかにもいろんな多文化共生の話とか、

防災の話、防犯の話、いろいろいただきました。少なくともいい方向にもっていきたい。生野区で爆発的に人口がふえるということは、もう住宅事情から言って不可能です。けれども、現状維持プラスアルファは絶対にできると信じています。

ですから、空き家対策も一生懸命やりますし、にぎわいづくりもやりますし、ただその中に行かせたい学校と近くにそういったつながりのある場があるということ、それを作りたいと思っています。

学校がなくなったらまちが寂れると言われますが、既に生野区はもうしんどい状況なんです。それはもう数字でも何もかも表れています。中にいるからわからないこともいっぱいあると思っています。そして小さい学校だったら目が届く、行き届くとみなさんおっしゃいます。では、その結果、なぜこんなに虐待の案件が生野区は多いんでしょう。24区ワースト3ぐらい多いと思います。なぜなくなっていないんでしょう。小さくて目が届いて、みんな地域の人が子どもを見ているんだったら。私はそこもいつも不思議に思っています。

ですから、皆さんに最後1つだけお願いがあります。こども未来部会でも言いましたけど、しんどいお母さんとか、しんどい子どもというのは、コミュニケーションをとるのがとても下手です。ときには外国のお母さんとかお父さんもいるかもしれません。ぜひ目を見て挨拶を笑顔でしていただければうれしいです。

挨拶は、あなたを認めていますよ、あなたがいることわかっているよという承認ですね。笑顔は会えてうれしいのメッセージです。それはもうひとり暮らしのお年寄りもたくさん多い生野区だからこそ、全ての人に、できればお互いがしていただければと思っています。

この話をぜひ地域とか、PTAとかそれぞれのところに持って帰っていただいて、意識していただければと思います。最後は笑顔で終わりたいと思います。本当にありがとうございました。

○和田議長

どうもありがとうございました。

本日は、昨年度の生野区の取り組みの振り返りについて、各部会からのご意見をご報告いただき、その上委員の皆様から非常に活発な意見交換がなされたと思います。

区政会議は、我々委員が区民を代表して区政に参画する大切な場です。地域のまちづくり協議会などからご推薦された委員の方々につきましては、地域の皆様方に本日の会議の様子お伝えいただきたいと思います。

それでは、副議長から一言お願いいたします。

○新井副議長

失礼します。副議長ではありますが、PTAとして一言だけこの場で伝えさせていただきたいんですけれども、学校再編のことに関しま

しては、本当に区役所からは、もう十分過ぎるぐらい説明を受けております。

その言葉の揚げ足をとって立ちどまって考えようとかいうのは、本当にまたかという思いがたくさんあります。再編で1つになった桃谷中学校の校長先生からは、学校の中に子どもたちの笑い声がたくさん聞こえる、うれしいと言葉を聞いております。

やっぱりそんな学校を1つでもたくさん増やしていきたい、子どもの安全のことをとても考えられていることはわかるんですけども、それと並行してね、教育環境というのを進めていけたら、本当に素晴らしいことだと思うんですけども、これからたくさん考えていかなければいけないこともたくさんあると思うんですけども。

あともう一つ、区役所のほうからよくPTAのほうに、どうやって話を聞いてもらえるのか、どうやって人が集まるのかということをよく聞かれます。PTAでも講演会、講習会、研修会を行うんですけども、本当に来てくれる親は、こういう説明会にも行っているんです。

やはり聞いていないとおっしゃる方は、そういうPTAが行う講習会、それぞれにも足を向けることなく、ただ、ほかの区からも生野区は大変やな、どうなっているんや、学校再編のこと大変やろとか、いろいろ言葉を聞く中で、現に生野区に住んでいる人たちは、保護者は今さら知らないとか、聞いていないとかいうのは、私はまず無責任なように感じます。本当に知らないのか、もし知らないなら、ぜひいろんなところへ足を向けて、区役所のほうも説明にも来ると、本当にずっとおっしゃられるので、聞いていただきたいと思います。

すみません、本当に自分の思いだけちょっと伝えさせていただきま

す。そして、この場であります区政会議は、生野区のあり方や将来について、区民同士が率直に情報交換をしたり、意見を語り合える場でもあります。我々これからも子どものため、子どもの将来のため、区役所とともにしっかりと考えていきたいと思ひます。そして誰でも温かい気持ちで誰とでも挨拶を交わし合えて、お互い認め合い、支え合う、そして昔から生野区のあるよさを残して、笑顔の絶えない関係を築いて、区民が手を取り合って子どもをもっと好きになってほしいと強く思ひました。

今後とも、どうか活発なご意見、ご発言のほうをまたよろしく願ひいたします。

○和田議長

それでは最後に、事務局から連絡事項があるようですので、願ひいたします。

○橋本企画総務課長

長時間ありがとうございました。

時間もまいっておりますので、簡単に区政会議の委員の改選についてご説明をさせていただきます。

本年の9月末で皆さんの任期、2年の任期が終了いたします。新たに委員改選の手續に既に入らせていただいております。

委員につきましては、各まち協からのご推薦と地域振興会のご代表としての推薦をいただくということで、既にご依頼をさせていただいております。

公募委員につきましても、本日から公募の手續を取らせていただいております。

なお、学識経験者の委員につきましても、今後、各委員の皆様方に区長のほうからご依頼をさせていただくということで準備を進めさせていただいております。

また、最後になりますけれども、歴代の議長の皆さんをはじめ、区長から特別にご依頼させていただいている関係者の皆様には引き続きその都度参加のご依頼をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

なお、改選のスケジュールにつきましては、参考資料6というものをお渡ししていると思っておりますけれども、裏面をみていただきましたら、6月から10月までのスケジュールを書かせていただいております。

新たな委員による第1回の区政会議は10月の下旬から11月の上旬ごろを目途に開催をしてまいりたいと考えています。以上でございます。

○和田議長

ありがとうございました。ただいま事務局から連絡がありましたように、現行の委員の皆様の任期は9月末ということですので、本日の会議でひとまず終了ということになります。次は、新たなメンバーでの区政会議となります。

委員の皆様、これまで大変お疲れさまでございました。

それでは、これにて本日の区政会議を終了いたします。どうもありがとうございました。